

青島神社：神聖な紙紮

紐や縄を結びつけて結び目や結束を象徴化するという考え方は、日本の神話や宗教では重要な役割を担っています。最も根本的なレベルにおいて、神道ではこうした結び目は天、地、そして万物を結びつけるものとみなされているため、生命自体に密接に関連づけられています。また結び目は、恋愛の象徴でもあり、この文脈においては紐がその表象となっています。現存する日本最古の詩集である8世紀の『万葉集』には、紐の結び目を愛の象徴として詠う作品が多く収められています。このように結び目に生命と愛を見出す考え方は、現代の日本の文化や言語にも残っており、少なくとも江戸時代（1603-1867）からは紙紮を神聖な建造物または木に結びつけて、健康、悪霊からの保護、そして恋愛運などを求めて祈ることで、こうした考え方が表現されるようになりました。ここでは、参拝者は選んだ紙紮を購入して木か縄に結びつけて願い事を行うことができます。青い紙紮は健康を願うため、緑の紙紮は仕事または学業の成功を願うため、黄色の紙紮は商売の成功を願うため、赤の紙紮は恋愛と子供と安産または夫婦円満を願うため、そして白い紙紮はその他のカテゴリーのいずれにも分類できない願い事のために使われます。紙紮は1本100円で、神社への寄付となります。